

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2001 年 9 月 27 日 (27.09.2001)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 01/70069 A1

- (51) 国際特許分類: A45C 5/00
- (21) 国際出願番号: PCT/JP00/01740
- (22) 国際出願日: 2000 年 3 月 22 日 (22.03.2000)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 明治合成株式会社 (MEIJIGOSEI CO., LTD.) [JP/JP]; 〒989-6233 宮城県古川市桜ノ目字新高谷地140-5 Miyagi (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 片瀬 浩

(KATASE, Hiroshi) [JP/JP]; 〒989-6135 宮城県古川市稲葉3丁目6-33-301 Miyagi (JP). 宮島慎吾 (MIYAJIMA, Shingo) [JP/JP]; 〒336-0007 埼玉県浦和市仲町4丁目21-33号 Saitama (JP). 伊藤克利 (ITO, Katsutoshi) [JP/JP]; 〒989-3125 宮城県仙台市青葉区下愛子字森下1番1号2-403 Miyagi (JP).

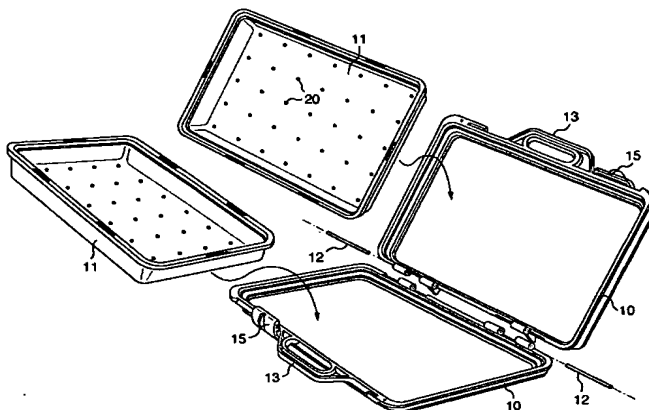
(74) 代理人: 浅村 皓, 外 (ASAMURA, Kiyoshi et al.); 〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目2番1号 新大手町ビル331 Tokyo (JP).

(81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW.

[続葉有]

(54) Title: BAG

(54) 発明の名称: かばん



(57) Abstract: A box-shaped bag capable of being varied in thickness, wherein two frame bodies formed of plastic in rectangular shape are connected openably to each other through hinge pins (12), shells are formed of plastic in disk shape and the peripheral edges of the shells are folded back outward in U-shape, and grooves are formed around the frame bodies so that, when the shells are fitted to the frame bodies, the folded back parts of the shells are just fitted into the grooves of the frame bodies.

(57) 要約:

箱形かばんの厚みを変えられるようにする。そのためにかばんは、プラスチックで四角形に成形した枠体を2個、蝶番ピン12で開閉自在に結合し、シェルはプラスチックで皿状に成形し、シェルの周縁はU字状に外側に折返す。また枠体の周囲に溝を巡らし、枠体にシェルをはめ込むと、シェルの折返し部がこの枠体の溝にぴったりとはまり込む構成とする。

WO 01/70069 A1



(84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

明 細 書

かばん

5 技術分野

本発明は、シェルを付け替えることができる箱形かばんに関する。

背景技術

アタッシュケースに代表されるような箱形かばんは、下部を互いに枢支した一対の枠体にシェルが固定されている。このような箱形かばんは、押されても簡単

10 には潰れないので、書類等を安心して入れることができる。

しかし、箱形かばんは容量（厚み）を変えることができないので、その時々
の用途によって大き過ぎたり小さ過ぎたりすることがある。また、特定の物を入
れるためにかばんの中に専用の仕切りを設けられているものもあるが、このよう
な仕切り付きのかばんでは、他の形状・寸法の異なる物を入れにくい欠点がある。

15 このため、いくつものかばんを揃えることになり、置き場所に困ることになる。

発明の開示

そこで、本発明は、シェルを簡単に取り替えることができるかばんを提供する
ことを目的とする。

本発明のかばんは、下部を互いに枢支して開閉自在とした一対の枠体に皿状の
20 シェルを取外し自在に内側からはめ込んだ構成を有する。

このように本発明のかばんは、枠体にシェルを取り外し自在にはめ込む構成と
したことで、厚みや色の異なる何種類かのシェル、さらには、仕切りを付けたシ
ェルを用意しておいて、それらのシェルを付け替えることで、その時々
の用途に応じたかばんを得ることができる。したがって、いくつものかばんを持つ必要が

25 なくなり、保管スペースが少なくて済む。

枠体から外したシェルは、物を入れておく収納トレイとしても使用できる。ト
レイ（シェル）に収納された物は、そのままシェルを枠体にはめ込むことで、詰
め替えることなく、持ち歩くことができる。

好ましくは、シェルの周縁は外側にU字状に折り返し、枠体の周囲には溝を形

成し、この溝の中にシェルの折り返し部が嵌入するように構成する。こうすることで、シェルと嵌合して枠体のゆがみがなくなり、かばんを閉じたとき、一對の枠体同士がぴったり合い、食い違いが生じない。

- さらに、シェルの内面に一定間隔でくぼみを形成し、またこのくぼみに対応して仕切りや小物入れ等の底に設けた突起をこれらくぼみに嵌合して、仕切りを固定することが好ましい。この構成により、固定された仕切りを使ってかばんの中にきっちりと物を収めることができる。

図面の簡単な説明

- 図1は本発明によるかばんの一実施例の分解斜視図である。
- 10 図2は図1のかばんの実施例の枠体とシェルの嵌合状態を示す断面図。
- 図3は図1の実施例の開いた状態のかばんの斜視図。
- 図4は図1の実施例の閉じた状態のかばんの斜視図。
- 図5は本発明によるかばんの仕切りを取り付けるところを示すシェルの部分断面図。
- 15 発明を実施するための最良の形態

本発明によるかばんの一実施例を図1に示す。この実施例は、図に示すように、枠体10にシェル11を取外し自在にはめ込むことができるように構成される。枠体10はプラスチックで四角形に成形されたもので、この枠体2個を、蝶番ピン12で開閉自在に結合する。枠体10には取っ手13を一体に成形する。符号

20 15は一對の枠体10が開かないように保持するスライド式のストッパである。

- シェル11はプラスチックで皿状に成形したもので、枠体10の中にぴったり収まる寸法を有する。図2に示すように、シェル11の周縁はU字状に外側に折返されている（折返し部を符号16で示す）。一方、枠体11の周囲には溝17を巡らす。枠体10にシェル11をはめ込むと、図2に鎖線で示すように、シェルの折返し部16がこの枠体の溝17にぴったりとはまり込む。
- 25

はめ込んだシェル11が枠体10から簡単に抜けないようにするため、枠体10の溝17およびシェル11の折返し部16の複数の所定の場所に、小さな突起である爪19を設け、シェルをはめ込むとき、一方の爪19が対応する相手側の爪19を乗り越えるようにする。こうしてはめ込まれたシェル11は、爪19

同士が引っ掛かるため、枠体 10 から簡単に外れない。シェル 11 を枠体 10 から外すときは、シェル 11 を外から内側に強く押す。こうすれば、片方の爪 19 が相手の爪 19 を乗り越えてシェル 11 が外れる。

こうして、シェル 11 を枠体 10 にはめ込んだ状態を図 3 に示す。図 4 はかばんを閉じた状態を示す。

これらの図面に示すシェルは標準の深さのものであり、かばんをもっと厚くしたいときは、標準厚さのシェルを外し、深さのもっと大きなシェル（図示しない）に付け替える。

なおシェル 11 を成形するとき、同時に、シェルの内面に縦横に一定間隔を置いてくぼみ 20 を形成する。このくぼみ 20 を利用して、仕切板、小間物入れ等を取り付ける。すなわち図 5 に示すように、仕切板（または小物入れ）22 の下部に突起 21 を設けておき、この突起をくぼみ 20 の中に嵌入することにより固定する。突起が簡単に外れないよう、くぼみ 20 の入口は狭く形成する。

産業上の利用可能性

15 上述したように、本発明の構成によって、かばんのシェルを簡単に取り替えることができ、厚みや色などのその時の用途に応じたかばんを使用することができるものである。

本発明は好ましい実施例を参照して記述してきたが、本発明はそれらの詳細事項に限定されるものではないことを理解されたい。本発明は付記された請求の範囲 20 の精神及び範疇からはずれることなく、本発明の関連する当業者にとって明白なる変更例をも包含するものと理解されたい。

請求の範囲

1. 下部を互いに枢支した一对の枠体と、該枠体に取り外し自在に内側からはめ込んだ皿状のシェルからなるかばん。
- 5 2. 該シェルの周縁を外側にU字状に折返し、この折返し部が勘合する溝を該枠体の周囲に巡らした請求項1に記載のかばん。
3. 該シェル内に仕切りを固定するために、該仕切りの下部に設けられた突起が嵌入するくぼみを該シェルの内面に複数個、間隔をおいて形成した請求項1に記載のかばん。
- 10 4. 該シェル内に仕切りを固定するために、該仕切りの下部に設けられた突起が嵌入するくぼみを該シェルの内面に複数個、間隔をおいて形成した請求項2に記載のかばん。

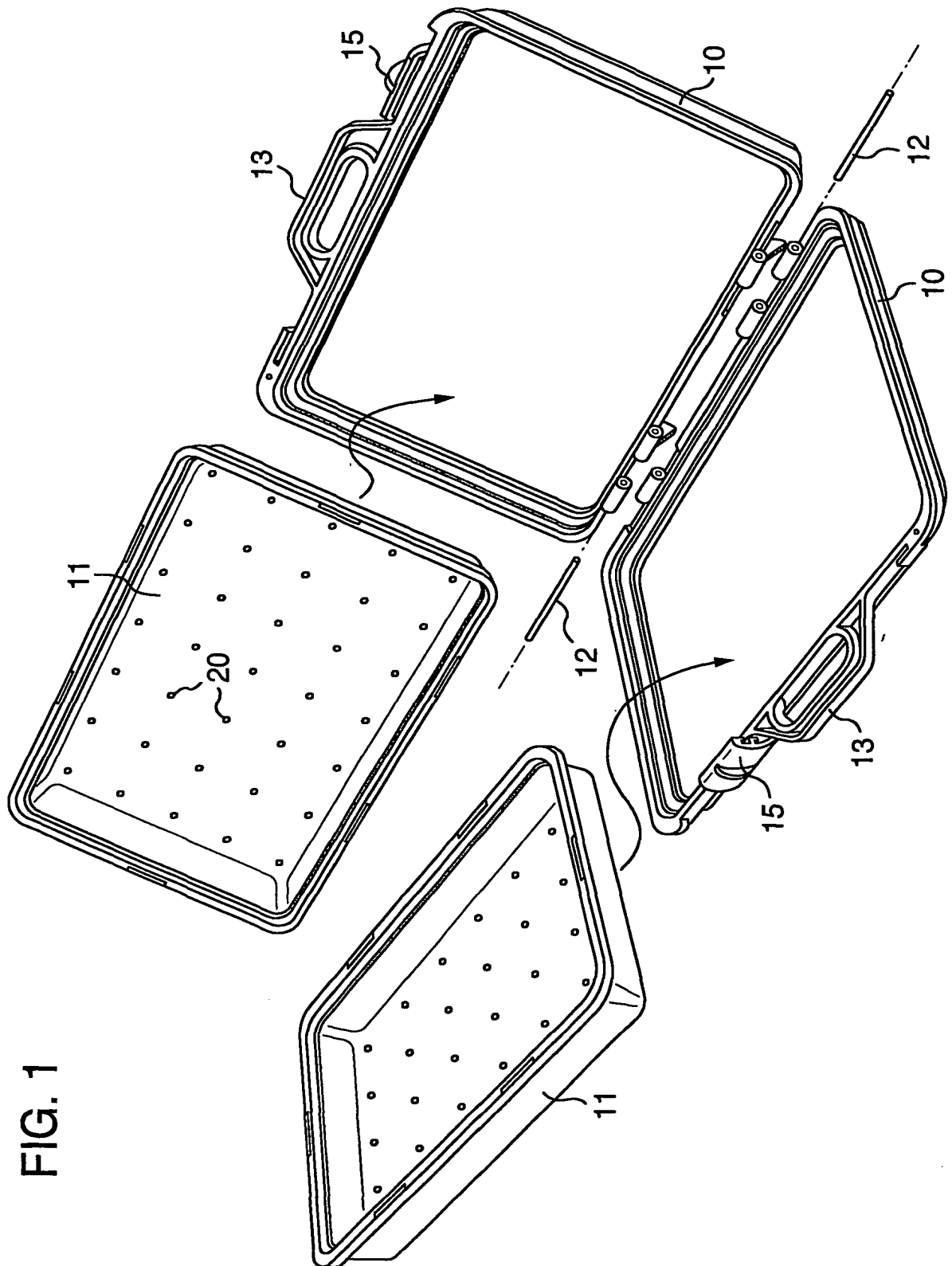


FIG. 1

THIS PAGE BLANK (USPTO)

FIG. 2

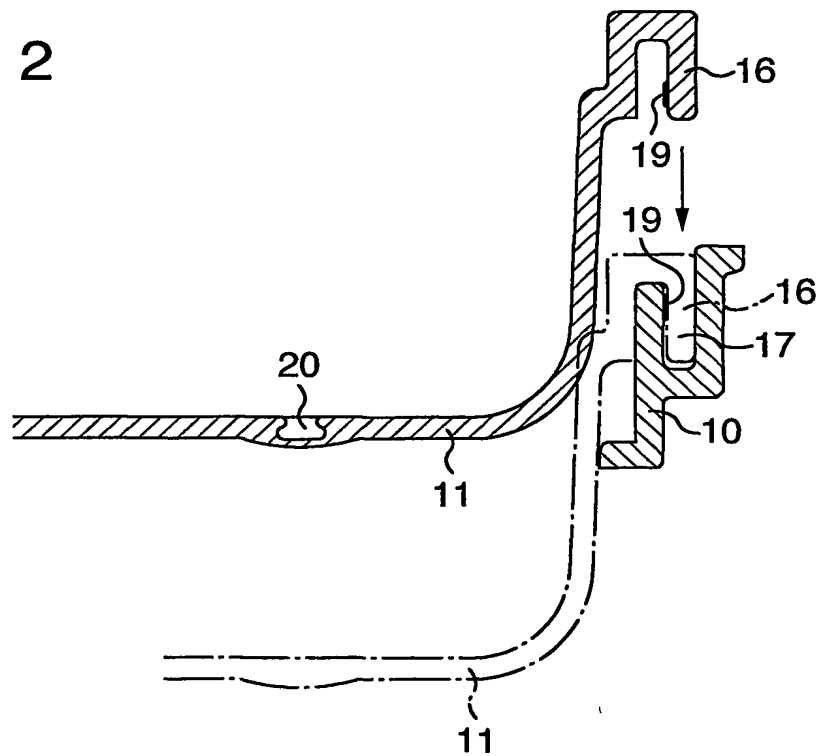
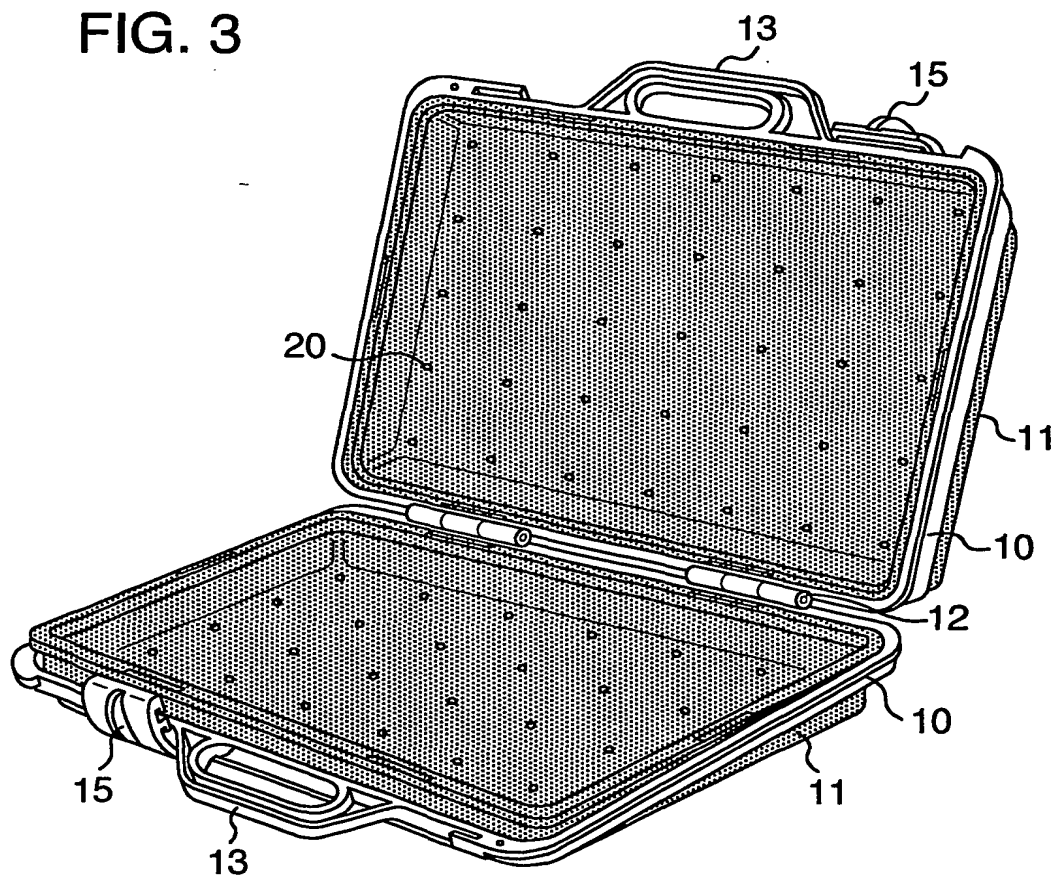


FIG. 3



THIS PAGE BLANK (uspro)

3/3

FIG. 4

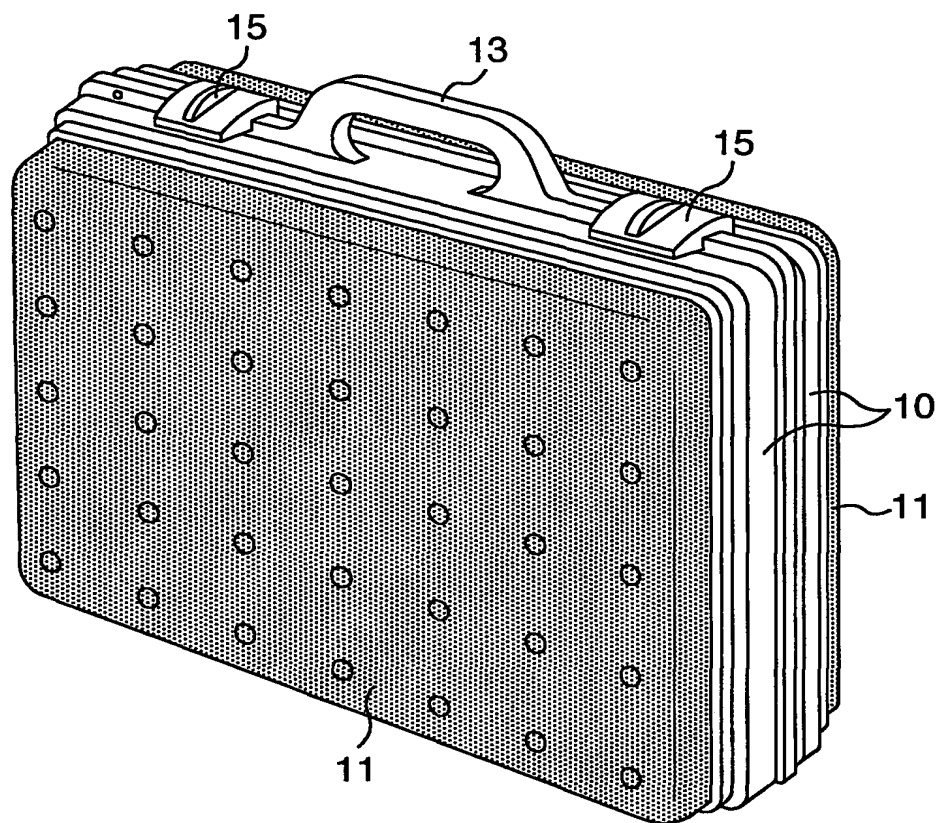
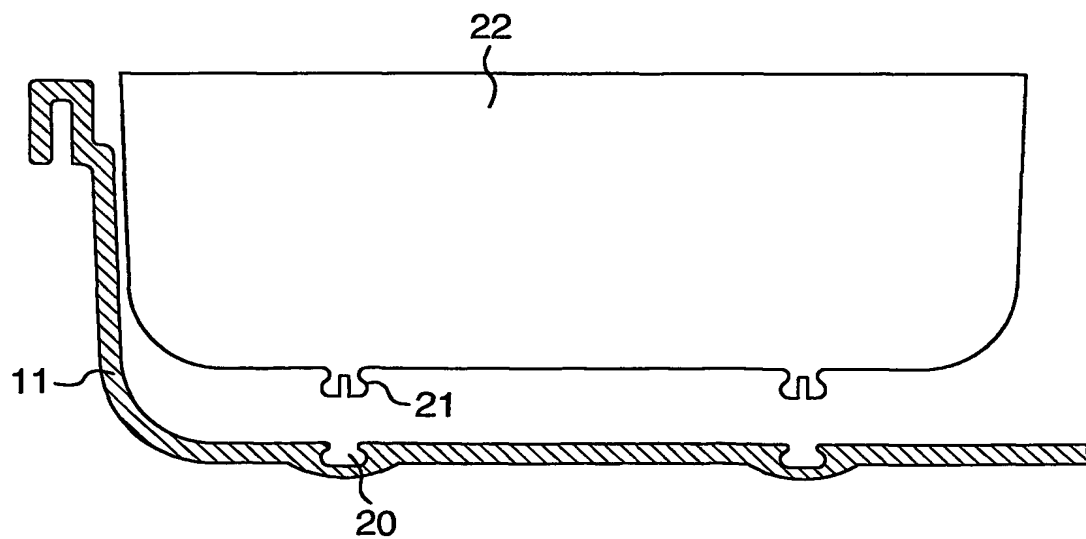


FIG. 5



THIS PAGE BLANK (USPTO)

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. cl⁷ A45C5/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. cl⁷ A45C5/00, 5/12, 7/00, 7/02, 13/02

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1926-2000年

日本国公開実用新案公報 1971-2000年

日本国登録実用新案公報 1994-2000年

日本国実用新案登録公報 1996-2000年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	JP, 10-502555, A (ヴォンカ, ユスティーネ外2名)	1
Y	10.03月.1998年(10.03.98) &WO96/02	2-4
Y	160、公報第2頁特許請求の範囲1	2-4
	JP, 47-033672, B (竹原平記) 26.08月.197	
	2年(26.08.72) (ファミリーなし) 公報第1欄第25行	
	目一第2欄第16行目	
Y	JP, 11-164721, A (コクヨ株式会社) 22.06月.	3-4
	1999年(22.06.99) (ファミリーなし) 公報第2頁請	
	求項1	

☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

16.06.00

国際調査報告の発送日

04.07.00

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

山崎 勝司

3R

8929

電話番号 03-3581-1101 内線 3386

THIS PAGE BLANK (USPTO)